

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-70740

(43)公開日 平成6年(1994)3月15日

(51)Int.Cl.⁵

A 2 4 F 15/18
19/14

識別記号

庁内整理番号

7229-4B

B 7229-4B

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数3(全 6 頁)

(21)出願番号 特願平4-270704

(22)出願日 平成4年(1992)8月28日

(71)出願人 592212227

有限会社ネクストワン

東京都北区田端1丁目11番1号 勘五郎ビ
ル203号

(72)発明者 後藤 淳

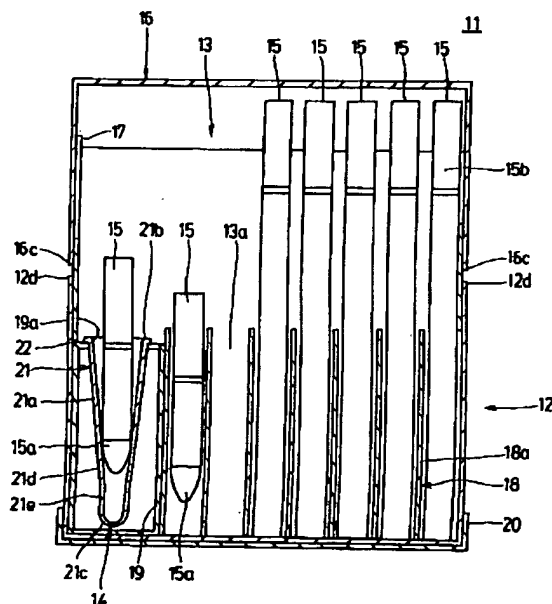
埼玉県北本市大字下石戸下703番地3 公
団2-11-104

(54)【発明の名称】 消火機能付吸殻入れ兼用タバコケース

(57)【要約】

【目的】火のついた紙巻きタバコを消火筒に挿入するだけで直ちに消火でき、紙巻きタバコの消火筒への挿脱を容易に行うことができ、消火した紙巻きタバコの吸殻を全てタバコ収納部に収納でき、依って吸殻の投げ捨てを防止できる。

【構成】脱着可能な底蓋20を有しているケース本体12内に複数の紙巻きタバコ15を収納するタバコ収納部13と、紙巻きタバコ15を挿脱可能であって、挿入状態で紙巻きタバコ15の火を消す消火筒21又は41を有する消火部14とがそれぞれ設けられ、複数の使用前の紙巻きタバコ15又は火を消した紙巻きタバコ15を1本ずつ挿入可能にタバコ収納部13内を区画する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ケース本体12内に複数の紙巻きタバコ15を収納するタバコ収納部13と、前記紙巻きタバコ15を挿脱可能であって挿入状態で前記紙巻きタバコ15の火を消す消火筒21、41を有する消火部14とがそれぞれ設けられ、前記複数の使用前の紙巻きタバコ15又は火を消した紙巻きタバコ15を1本ずつ挿入可能に前記タバコ収納部13内を区画する仕切板18が前記タバコ収納部13に設けられた、前記ケース本体12と脱着可能な底蓋20を有する消火機能付吸殻入れ兼用タバコケース。

【請求項2】 消火筒21、41はその上部が紙巻きタバコ15の外径より大きい内径を有するように形成され、その下部が挿入された前記紙巻きタバコ15の火のついた先細り部15aの根元付近を保持しかつ前記根元付近以外の前記先細り部15aが筒内面に可能な限り接触しないように前記先細り部15aより緩やかに下端に向かって内径が小さくなるテーパ筒21d、41dに形成され、その下端が閉塞された請求項1記載の消火機能付吸殻入れ兼用タバコケース。

【請求項3】 消火筒21、41の長さが紙巻きタバコ15の長さの1/4～1/2である請求項1記載の消火機能付吸殻入れ兼用タバコケース。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は市販のタバコケースの改良に関する。更に詳しくは、タバコの火を消す消火機能と吸殻入れ機能とを兼備したタバコケースに関するものである。

【0002】

【従来の技術】喫煙者には防火上又は環境美化のために紙巻きタバコの吸殻を路上及び駅のホーム或いは河川、湖、海等に投げ捨てないことが求められている。灰皿の設置されていない場所、特に屋外でスポーツ或いは釣り等のレジャーを楽しんでいる時に紙巻きタバコを吸う場合には、良識ある喫煙者はその吸殻を収納するための携帯用の吸殻入れをタバコケースとは別に持ち歩いている。

【0003】しかし、従来の吸殻入れでは、タバコケースとは別に携帯しなければならないため携帯品を増加させるだけでなく、火のついた紙巻きタバコを挿入し吸殻入れの外面から火のついた部分を押し潰して火を消さなければならず、比較的煩わしい問題点があった。更に、携帯に便利のように薄く形成されているため多くの吸殻を収納できない問題点があった。

【0004】これらの問題点を解決するために、ケース本体内に市販の紙巻きタバコをそのケースごと収納するタバコ収納室と、紙巻きタバコの吸い差し及び吸殻を火のついたまま挿入する筒状消火室とが形成され、タバコ収納室と筒状消火室の上面を開放可能に閉止する蓋がケ

ース本体に連結され、蓋の内面に筒状消火室の開口部を密閉する栓状突起が形成されたタバコ用ケースが開示されている（実開平1-130698）。このケースでは、火のついた紙巻きタバコをそのまま筒状消火室に挿入し、この筒状消火室の開口部を栓状突起により密閉するだけで、直ちに消火できるようになっている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかし、上記のタバコ用ケースは筒状消火室に挿入した吸殻の後始末をする場合には、灰皿及び塵箱が設置された場所に行った時に筒状消火室から吸殻を抜いて捨てる必要があり煩わしく、しかも灰皿及び塵箱がない場所に長く居て筒状消火室の収納本数以上のタバコを吸った場合には、新たに吸ったタバコの吸殻を筒状消火室に挿入するために、既に挿入されているタバコの吸殻を抜き取って路上等に捨てるか、或いは灰皿がある所まで持っていき捨てなければならなかった。また、紙巻きタバコの吸殻が全て筒状消火室に埋没するので、筒状消火室に挿入された吸殻が抜き取りにくい問題点があった。更に、上記のタバコ用ケースでは、筒状消火室の底に紙巻きタバコの灰が堆積して筒状消火室のタバコを挿入できる長さが次第に短くなって、筒状消火室の開口部を栓状突起により密閉できなくなる恐れがあった。このため、筒状消火室を定期的に清掃しなければならない煩わしさがあった。

【0006】本発明の目的は、火のついた紙巻きタバコを消火筒に挿入するだけで直ちに消火でき、紙巻きタバコの消火筒への挿脱を容易に行うことができ、消火した紙巻きタバコの吸殻を全てタバコ収納部に収納でき、かつ吸殻の投げ捨てを防止できる携帯性の高い消火機能付吸殻入れ兼用タバコケースを提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するための本発明の構成を、実施例に対応する図1及び図6を用いて説明する。本発明の消火機能付吸殻入れ兼用タバコケースは、ケース本体12内に複数の紙巻きタバコ15を収納するタバコ収納部13と、紙巻きタバコ15を挿脱可能であって、挿入状態で紙巻きタバコ15の火を消す消火筒21又は41を有する消火部14とがそれぞれ設けられ、複数の使用前の紙巻きタバコ15又は火を消した紙巻きタバコ15を1本ずつ挿入可能にタバコ収納部13内を区画する仕切板18がタバコ収納部13に設けられたものである。また、上記の消火機能付吸殻入れ兼用タバコケースは、消火筒21又は41がその上部が紙巻きタバコ15の外径より大きい内径を有するように形成され、その下部が挿入された紙巻きタバコ15の火のついた先細り部15aの根元付近を保持し、かつ根元付近以外の先細り部15aが筒内面に可能な限り接触しないように先細り部15aより緩やかに下端に向かって内径が小さくなるテーパ筒21d又は41dに形成され、その下端が閉塞されるように構成されることでもでき

3

る。更に、上記の消火機能付吸殻入れ兼用タバコケースは、消火筒21又は41の長さが紙巻きタバコ15の長さの $1/4 \sim 1/2$ であることが好ましい。 $1/4$ 未満では消火が不確実になることがあり、 $1/2$ を越えると短くなったタバコ15が消火筒21内に埋没し易くなる。更に、上記の消火機能付吸殻入れ兼用タバコケースは、複数の使用前の紙巻きタバコ15又は火を消した紙巻きタバコ15の吸殻等を取り除くためにケース本体12と脱着可能な底蓋20を有している。

【0008】

【作用】灰皿のない屋外で紙巻きタバコ15を吸うために紙巻きタバコ15のうちの1本を取り出し、火をつけて喫煙し、短くなった紙巻きタバコ15をその火のついた先細り部15aから消火部14の消火筒21又は41に挿入する。この状態でタバコケース11を携帯する。消火筒21又は41に挿入された紙巻きタバコ15の先細り部15aの根元付近が消火筒21又は41のテーパ筒21d又は41dで保持される。ここで消火筒21又は41のテーパ筒21d又は41d内に火のついた先細り部15aが位置するので、タバコ15の先細り部15aの根元付近がテーパ筒21d又は41dに接触することによって作られた空間内の酸素が欠乏して消火する。暫くしてまた紙巻きタバコ15を吸う時には、消火筒21又は41に挿入されている紙巻きタバコ15の吸殻をタバコ収納部13の元の位置に挿入した後、新しい紙巻きタバコ15を取り出して喫煙する。吸い終わった紙巻きタバコ15を消火筒21又は41に挿入する。時折、紙巻きタバコ15の吸殻等の塵が底蓋20に溜まるので、ケース本体12から底蓋20を脱着して捨てる。

【0009】

【実施例】次に本発明の実施例を図面に基づいて詳しく説明する。図1～図5に示すように、紙巻きタバコ15のケース11は複数の紙巻きタバコ15を収納可能なタバコ収納部13と紙巻きタバコ15の火を消す消火部14とを有するケース本体12と、ケース本体12の上面に形成された開口部12aを開放可能に閉止する蓋16と、ケース本体12と脱着可能な底蓋20とを備える(図5)

【0010】ケース本体12は樹脂製又は金属製から成り、ケース本体12の開口部12aの後縁12bの高さは紙巻きタバコ15の長さより僅かに低く形成され(図5)、開口部12aの前縁12cの高さは消火部14の上面より所定の距離だけ高く形成される(図2及び図5)。開口部12aの前縁12cの高さは本発明の実施例では消火部14の上面より約10ミリだけ高く形成される。開口部12aの両側縁12d、12dはそれぞれ上側水平縁12e、傾斜縁12f及び下側水平縁12gから成り、開口部12aの後縁12bの両端はそれぞれ上側水平縁12e、傾斜縁12f及び下側水平縁12gを介して前縁12cの両端に接続される。蓋16は樹脂

4

製又は金属製から成り、蓋16の後壁16aはケース本体12の開口部12aの後縁12bに沿って折り曲げ可能にケース本体12の後壁12hと一体的に形成される(図5)。また蓋16の前縁16b及び両側縁16c、16cはこの蓋16によりケース本体12の開口部12aを閉止したときに開口部12aの前縁12c及び両側縁12d、12dにそれぞれ当接するように形成される(図4及び図5)。更に蓋16により開口部12aが閉止された状態で蓋16及びケース本体12間に発生する隙間を塞ぐ内枠17がケース本体12の開口部12aの前縁12c及び両側縁12d、12dに沿いつつ開口部12aから所定の距離だけ上方に突出して貼着される(図2及び図5)。底蓋20は、ケース本体12と容易に脱着することができるようケース本体12よりも僅かに大きく形成される(図4及び図5)。

【0011】タバコ収納部13には複数の紙巻きタバコ15を1本ずつ挿入可能にタバコ収納部13内を7区画、6区画、7区画の合計20区画に区画する仕切板18が挿着される。仕切板18はケース本体12の開口部123からタバコ収納部13にそれぞれ鉛直方向に挿入された縦壁18a及び横壁18bを有する。縦壁18a及び横壁18bは薄い樹脂板又は金属板であり、仕切板18は壁18a、18bを格子状に一体的に形成することにより構成される。タバコ収納部13には本発明の実施例では20本の紙巻きタバコ15が挿入され、仕切板18の縦壁18a及び横壁18bにより20本の紙巻きタバコ15を1本ずつ挿入可能な20個のタバコ挿入部13aが形成される。またタバコ挿入部13aには消火した紙巻きタバコ15の吸殻も挿入可能になっている(図1、図3及び図5)。

【0012】消火部14はケース本体12内の一方の側面と底面に密着して挿入される消火箱19と、消火箱19に挿入され紙巻きタバコ15を挿脱可能な消火筒21とを備える(図1、図2及び図5)。本発明の実施例では消火筒21は1つである。消火箱19は樹脂製又は金属製により直方体に形成され、消火箱19の高さはタバコケース11の高さの約 $3/7$ であり、消火筒21の長さは消火箱19の高さより僅かに短く、即ち紙巻きタバコ15の長さの約 $3/7$ に形成される。消火箱19の上面には樹脂製又は金属製の補強板22が貼着される。消火箱19の上面中央には通孔19aが形成され、この通孔19aには耐熱性材料から成る消火筒21が挿入される。本発明の実施例では消火筒21は金属パイプである。消火筒21は筒本体21aと、筒本体21aの上端に筒本体21aと一体的に形成されたフランジ部21bと、筒本体21aの下端に筒本体21aと一体的に形成され筒本体21aの下端を閉塞する底部21cとを有する。消火箱19に挿入された消火筒21はそのフランジ部21bを消火箱19の上面の補強板22に接着することにより固着される。筒本体21aの上部は紙巻きタバ

5

コ15の外径より大きい内径を有するように形成される。筒本体21aの下部は紙巻きタバコ15の火のついた先細り部15aより緩やかに下端に向かって内径が小さくなるように形成されたテーパ筒21dと、テーパ筒21dの下端に接続されタバコ15の外径より小さい内径の平行管21eとを有する。テーパ筒21dは筒本体21aに挿入されたタバコ15の先細り部15aの根元付近を保持し、かつ根元付近以外の先細り部15aが筒内面に可能な限り接触しないように形成される(図1及び図2)。底蓋20は、ケース本体12から容易に脱着できるようにケース本体12よりも僅かに大きめに形成される。

【0013】以上のように構成された消火機能付吸殻入れ兼用タバコケースの使用方法を説明する。灰皿のない屋外で紙巻きタバコ15を吸うために、タバコケース11の蓋16をあけてケース本体12の開口部12aを開放すると、タバコ収納部13aに整列して収納された紙巻きタバコ15のフィルタ部15bが露出する。紙巻きタバコ15のうちの1本を取り出し、火をつけて喫煙して短くなった紙巻きタバコ15をその火のついた先細り部15aから消火部14の消火筒21に挿入し、この状態で蓋16を閉じて開口部12aを閉止してタバコケース11を携帯する。消火筒21に挿入されたタバコ15の先細り部15aの根元付近が消火筒21のテーパ筒21dで保持され、消火筒21のテーパ筒21d内に火のついた先細り部15aが位置するので、タバコ15の先細り部15aの根元付近がテーパ筒21dに接触することによって作られた空間内、即ちテーパ筒21d及び平行管21e内の酸素が欠乏する。このため、タバコ15を消火筒21に挿入してから10秒〜15秒で消火する。またテーパ筒21dがタバコ15の火のついた先細り部15aより緩やかに下端に向かって内径が小さくなるように形成されているため、タバコ15を消火筒21に押し込んでも、先細り部15aの根元付近のみが消火筒21の内面に接触し、根元付近以外の先細り部15aが消火筒21の内面に接触せず、また上述のように急速に消火するので、先細り部15aは完全な灰にならず炭化して硬化する。この結果、消火筒21内には殆ど灰等が落下しない。

【0014】暫くしてまた紙巻きタバコ15を吸う時には、消火筒21に挿入されている紙巻きタバコ15の吸殻をタバコ収納部13の元のタバコ挿入部13aに挿入した後に、新しい紙巻きタバコ15を取り出して喫煙する。この時、紙巻きタバコ15の吸殻の消火した先細り部15aは硬化しているので、タバコ挿入部13aに挿入しても殆ど紙巻きタバコ15の灰等がケース本体12内に落下することはない。吸い終わった紙巻きタバコ15を消火筒21に挿入する。紙巻きタバコ15の灰等がケース本体12内に落下したとしても、ケース本体12と脱着可能な底蓋20があるので底蓋20をケース本体

6

12からはずして紙巻きタバコ15の灰等を取り除く。

【0015】このように、消火筒21に火のついた紙巻きタバコ15を挿入し、消火した紙巻きタバコ15の吸殻を元のタバコ挿入部13aに挿入し、更にタバコケース11内の全ての紙巻きタバコ15を吸い終わった時には、底蓋20をはずして灰及び紙巻きタバコ15の吸殻を塵箱に捨てるという簡単な手順で済むので、吸殻の路上等への投げ捨てが減少し、紙巻きタバコ15の投げ捨てによる火災の危険性もない。

10 【0016】なお、上記の実施例ではケース本体及び蓋を樹脂製及び金属製から形成したが、これらに限定されるものではない。また、上記実施例では消火筒を金属パイプにより形成したが、耐熱性材料であればこれに限らず熱硬化性樹脂又はその他の不燃性部材により形成してもよい。また、図6に示すように消火筒19内に消火筒41を間隔をあけて被包する粒状剤収容筒42を設け、粒状剤収容筒42と消火筒41との間に消臭剤である粒状の活性炭43を充填し、更に、テーパ筒41dを含む消火筒41の周面に活性炭43の粒径より小さい多数の孔41fをあけてもよい。この場合、消火時に発生する嫌な臭いを活性炭43により消すことができる。また粒状剤収容筒42と消火筒41との間に活性炭43に代えて粒状の芳香剤を充填してもよい。図6において上記の実施例と同一符号は同一部品を示す。また、上記の実施例では消火筒の長さを紙巻きタバコの長さの約3/7としたが、消火筒の長さはこれに限定されるものではなく、紙巻きタバコ15の長さの1/4〜1/2の範囲内にあればよい。また2つ以上の消火筒を消火筒に挿入してもよい。更に、上記の実施例では、タバコ収納部を薄い樹脂板又は金属板から成る仕切板により20本の紙巻きタバコを収納可能にしたが、紙巻きタバコが収納可能であればタバコ収納部の区画数は限定されるものではない。また、仕切板は、樹脂板又は金属板以外の薄い材料を使用してもよい。

【0017】

【発明の効果】以上述べたように、本発明によれば、複数の紙巻きタバコをケース本体のタバコ収納部に収納し、火のついた紙巻きタバコを消火する消火部に紙巻きタバコを挿脱可能な消火筒を設け、タバコ収納部を仕切板にて区画して紙巻きタバコ又は消火部にて火を消した吸殻を1本ずつ挿入可能に構成したので、紙巻きタバコを吸って吸殻が増えてもタバコケースの大きさが変化せず、携帯性が高い。また、火のついた紙巻きタバコを消火筒に挿入するだけで直ちに消火でき、消火した紙巻きタバコの吸殻を全てタバコ収納部に収納することができるので、吸殻の投げ捨てを防止できる。また、消火筒の上部を紙巻きタバコの外径より大きい内径を有するように形成し、その下部を挿入された紙巻きタバコの火のついた先細り部の根本付近を保持しかつ根本付近以外の先細り部が筒内面に可能な限り接触しないように先細り部

7

より緩やかに下端に向かって内径が小さくなるテーパ筒を形成し、その下端を閉塞するように構成すれば、紙巻きタバコの先細り部から灰等が落下しないので、消火筒内を汚さずに済む。更に、消火筒の長さを紙巻きタバコの長さの $1/4 \sim 1/2$ にすれば、従来のタバコ用ケースの筒状消火室と比較して、消火が確実になりかつ紙巻きタバコの消火筒への挿脱を容易に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例の消火機能付吸殻入れ兼用タバコケースのケース本体の開口部が蓋により閉止された状態を示す図3のA-A線断面図。

【図2】ケース本体の開口部を開放した状態を示す図3のB-B線断面図。

【図3】図5のC-C線断面図。

【図4】蓋によりケース本体の開口部を閉止した状態を示すタバコケースの斜視図。

【図5】ケース本体の開口部を開放した状態を示すタバコケースの斜視図。

【図6】本発明の別の実施例を示す消火箱及び消火筒の縦断面図。

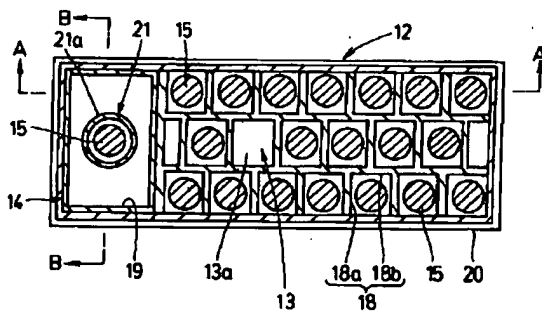
【符号の説明】

11 タバコケース
12 ケース本体
12a 開口部
12b 後縁
12c 前縁
12d 両側縁
12e 上側水平縁
12f 傾斜縁

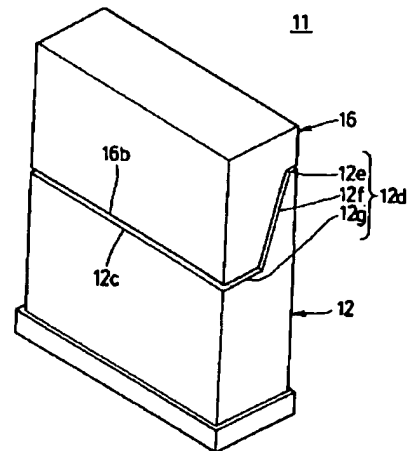
12g 下側水平縁
12h ケース本体の後壁
13 タバコ収納部
13a タバコ挿入部
14 消火部
15 紙巻きタバコ
15a 先細り部
16 蓋
16a 後壁
16b 前縁
16c 両側縁
17 内枠
18 仕切板
18a 縦壁
18b 横壁
19 消火箱
19a 通孔
20 底蓋
21、41 消火筒
21a 筒本体
21b フランジ部
21c 底部
21d、41d テーパ筒
21e 平行管
22 補強板
41f 孔
42 粒状剤収容筒
43 活性炭

8

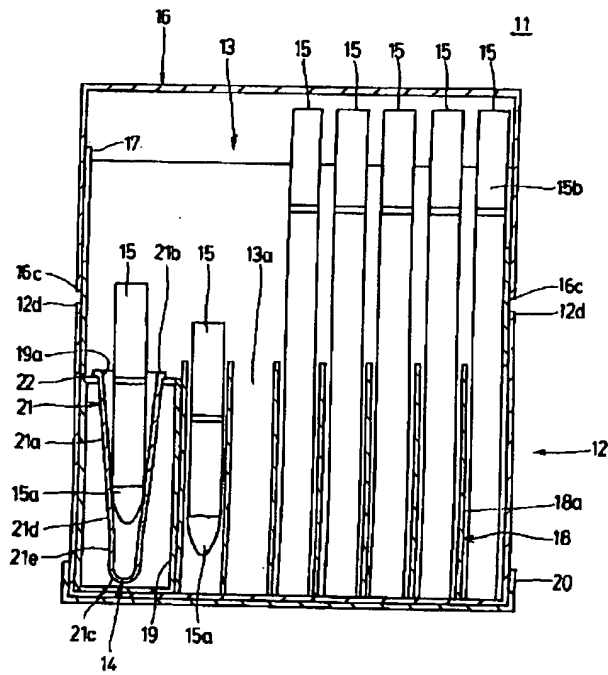
【図3】



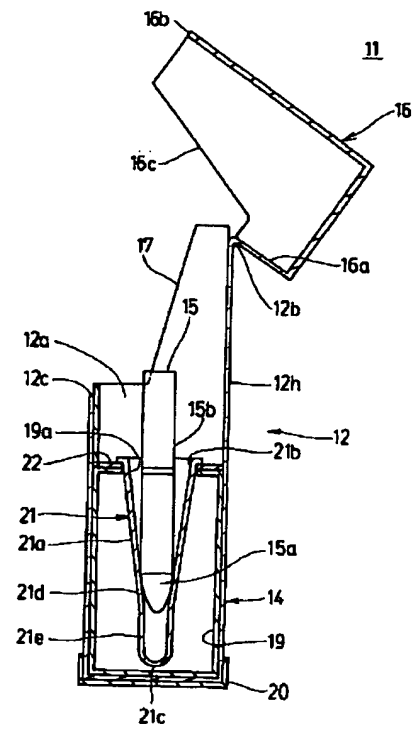
【図4】



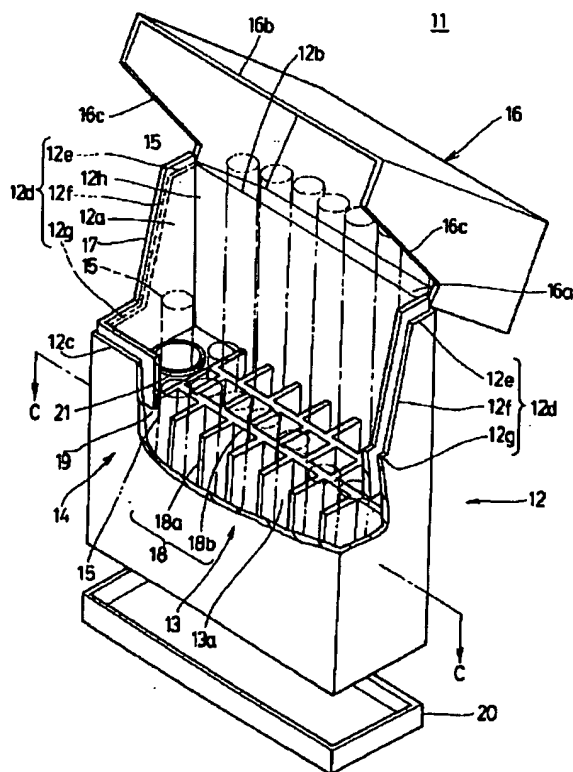
【図1】



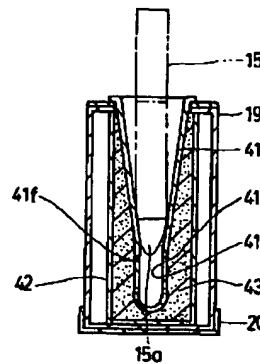
【図2】



【図5】



【図6】



CLIPPEDIMAGE= JP406070740A
PAT-NO: JP406070740A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 06070740 A
TITLE: TOBACCO CASE SERVING ALSO AS CIGARETTE BUTT CONTAINER
HAVING FIRE
EXTINGUISHING FUNCTION

PUBN-DATE: March 15, 1994

INVENTOR-INFORMATION:

NAME
GOTO, ATSUSHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
KK NEKUSUTO ONE	N/A

APPL-NO: JP04270704
APPL-DATE: August 28, 1992

INT-CL_(IPC): A24F015/18; A24F019/14
US-CL-CURRENT: 206/246

ABSTRACT:

PURPOSE: To obtain a tobacco case, capable of directly putting out a cigarette simply by inserting a lit up cigarette into a fire extinguishing cylinder, readily carrying out the insertion and removal of the cigarette from the fire extinguishing cylinder and housing all the put out cigarette butts into a tobacco housing part and thereby preventing the cigarette butts from being cast.

CONSTITUTION: The tobacco case is obtained by respectively installing a tobacco housing part 13 for housing plural cigarettes 15 in a case body 12 having a detachable bottom lid 20 and a fire extinguishing part 14 having a fire extinguishing cylinder 21 or 41 capable of inserting or removing a cigarette 15 and extinguishing fire of a cigarette 15 in an inserted state. The interior of the tobacco housing part 13 is divided so as to enable the insertion of the